郡山フレンズ 初優勝

関西団地軟式少年野球
第94回中央決勝大会

準決勝・決勝（30日、大阪府貝塚市・総合運動場）

準決勝2試合と決勝が行われ、郡山フレンズが平岡ジャガーズを2―0で下し、初優勝を飾った。また、4年生以下で行われる「第26回ジュニア選手権大会」（デイリー後援）の決勝も行われ、箕面モンキーズが10年ぶり2度目の優勝を成し遂げた。

主催　デイリースポーツ、関西団地軟式少年野球連盟
後援　都市再生機構、URコミュニティ
協賛　内外ゴム、オリックス野球クラブ、協同乳業

初優勝を飾った郡山フレンズ　由上 2回無失点と完璧な投球を見せた郡山フレンズ・常盤主将

【マ決勝】郡山フレンズ（北大阪）
0 0 0 1 0 1 0 0 0 2
0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
平岡ジャガーズ（泉北）
郡山＝岸、岸本、常盤―上岡
山崎（金）東、高山、塔本

【岡】山北郷寺―高田、岸
安 0 0 1 0 0 1 1 4
打 4 3 3 3 2 3 3 25
【平】由原、木村田中―東田
6 5 4 3 2 1 7

【金】岡山川崎屋屋原―
安 0 0 1 2 0 1 0 4
打 3 3 3 3 3 3 3 25
【岡】竹南高大西―津大中
6 5 4 3 2 1 7 254

【郡山】岸山岸常―柏
安 0 1 1 1 1 0 0 4
打 4 3 3 3 2 3 3 25
【泉北】五箇荘鶴―原井鈴
6 5 4 3 2 1 7 265

【千丘】黒中有塔吉上西
安 2 0 1 1 0 2 3 9
打 4 3 3 3 3 3 3 25
【平】山方本田山原
6 5 4 3 2 1 7 279

【マ準決勝】平岡ジャガーズ（泉北）
0 0 2 1 1 0 0 4
0 0 1 0 0 0 0 1
【金岡ベアーズ（南大阪）】
塔本―細見（金）
【郡山フレンズ（北大阪）】
南川、大機（金）―ニ
0 0 3 0 0 1 0 4

【千里丘イーグルス（北大阪）】
辻岡、常盤、山崎（金）―
中村、有方（岩本）
松山（岩本子）

箕面モンキーズ 10年ぶりジュニアV

【マジュニア決勝】泉北ドリームズ（泉北）
0 0 0 0 0 0 0 0
2 1 1 1 x 5 0
箕面モンキーズ（北大阪）
（泉）冨田―岩谷（箕）
（井）―宮本
▽二塁打　石井（箕）

【泉北】平畑山谷藤原原藤田
安 1 1 1 0 0 0 0 0 0 2
打 3 2 2 2 2 1 1 0 0 21
【箕面】上川島岩瀬佐久中中福
6 5 4 3 2 7 9 R 1

【箕面】石前松井間海伊新三加福
安 1 2 0 0 1 1 0 0 1 0 0 6
打 4 4 3 3 3 3 3 3 3 29
【泉北】井本口岡北藤井浦見野田
1 5 3 6 4 7 8 9 10 R 5
角関定

箕面モンキーズがジュニア選手権で10年ぶり2度目の優勝を果たした。先発の石井が全5回を完封。125㌔の小さな体をめいっぱい使い、四隅をつくコントロールで勝負した。「完投できてうれしい、二塁打も打てた」と笑顔。初回に本盗を決めて流れを引き寄せた宮本主将は「絶対に決める気持ちで走った」と胸を張った。

176

千里丘イーグルス・十川

（3打数3安打で）チャンスメーク「負けたけどみんな一緒に盛り上がれたし、2アウトから三塁まで進塁できた。いい試合ができたと思う」

金岡ベアーズ・大磯主将

「全力でやろうと臨んだので、出し切った。相手は少ないチャンスをものにしていたと思う」

走って歌って踊って…!?つかんだ栄冠

最後の打者を三振に打ち取った主将の常盤が小さくグラブをたたく。一進一退の攻防を制し、郡山フレンズが悲願の優勝を成し遂げた。大森諭監督は「勝ち切るのが目標だった。価値ある優勝」と、熱戦を戦い抜いたナインをたたえた。

最大の勝因は「0」を刻み続けた投手陣だ。決勝は先発・片岡が2回を被安打1と好投し、続く岸本が3回を1安打零封。六、七回を任された常盤は、最終七回を三者連続三振で抑えるなど無安打で投げ切った。「絶対に抑えてやるという気持ちだった。いいコースにボールがいった」と常盤。好リリーフでチームを支えた岸本は「最高です!!」と白い歯を見せた。

チームのおきては「走ること、歌うこと、踊ること」。少年野球では考えられない3カ条だが、恥ずかしさを取り除くのが最大の狙いだ。練習中、雰囲気が悪くなると、選手は踊りながら「カエルの歌」を大合唱。常盤主将は「声が出せるようになった」と徐々に成長を感じるという。

チームとして長打は0に終わったが、足でかき回し、好機を生かす野球が的中。試合前には円陣を組み、声を出して全員で踊った。

「厳しい練習によくついてきてくれた」と指揮官。走り、歌い、踊り抜いた郡山フレンズが新たな歴史を築いた。（國島紗希）

V戦士喜びの声!!

中森「優勝してうれしい。今日はヒットでランナーを進めるなど、いい活躍ができた」

山崎「2試合を勝つ気持ちが強かった。ベストの配球でピッチャーをリードできた」

片岡「2試合とも投球のコントロールが安定した。ミスはあったが走塁、バッティングがしっかりできた」

柏「守備と走塁で足を引っ張ったが、ピッチャーが踏ん張ってくれた。感謝したいです」

氏原「優勝してうれしかったが、自分のプレーは走塁がダメだった。優勝で気分は最高です!!」

浅井「素直にうれしいが、自分は足を引っ張った。チームはみんないいプレーをしていた」

李野「自分のバッティングや声がけができなかったが、岸本君がうまく抑えてくれて郡山に流れができた」

惜敗も成長見せた平岡ジャガーズ

頂点には届かなかったが、平岡ナインは充実した表情を見せた。塔本主将は「悔しいけど、ここ（決勝）まできたから悔いはない。自信になった」と前を向いた。

3年半ぶりの優勝を狙った決勝。先発・東が毎回のように走者を背負ったが、「低学年も応援にきてくれてムードが良かった」と振り返った遊撃・池田の好守などでピンチを幾度もしのいだ。打撃で好機を作るも、あと1本が出なかった。

試合後、監督と主将は声をそろえた。「チームがひとつになってきた」。試合前などの整列が遅く、列がばらばらだったチームが、速くきっちりできるようになってきた。現在のチーム活動は残り約半年。ナインは確かな成長を感じて大会を終えた。

好守でチームをもり立てた平岡ジャガーズ・池田（右）